

イギリス的な情景

— the scenes in Britain —

早稲田大学 教授
小田島 恒志

(第5回)

ヒルトップふたたび

イングランドの北西部、日本に例えたら秋田県あたりに、美しい景観で知られる湖水地方がある。19世紀にはロマン派の詩人ワーズワースやコールリッジが移り住み、日々散策を楽しんだと言う。

学生の頃、初めてイギリスを旅行した際、湖水地方へも足を延ばしてみた。点在する湖の中で最も大きく、観光客で賑わっている（山中湖のような）ウィンダミア湖がまず最初の目的地。ワーズワースの住んでいたダヴ・コテージなどを見物した後、湖沿いを歩いていくと、水面に向かって道路が途切れているところに出くわした。まるで湖に突っ込みなさいと言わんばかりの光景だ。見ると、対岸にも同じような場所があり、その間を巨大な筏のような、艇のようなものが一艘、行ったり来たりしている。どうやら簡単なフェリーということらしい。この「舟」が到着すると、車や自転車や歩行者が乗り込んでいき、いっぱいになると出発。歩行者10ペンスという安価に誘われてとりあえず乗ってみた。湖上でリュックからガイドブックを取り出し、位置を確認してみると、対岸には『ピーターラビット』の作者ビアトリクス・ポターの家「ヒルトップ」があるらしい。これはいい観光になる。

あっさり到着した船着き場（船着き道路？）か

ら、坂を上ってしばらく歩くと、写真で見た通りの家にとどり着いた。あれ？ 入れないのかな？ 土産物販売の店の方へ回ってみると、「ああ、それは気の毒に。閉館時間は4:30までなので……」えー……！ 時計を見ると4:40。あの、日本からはるばるここを訪ねてきたのですが（半分嘘）、とってはみたが、入れてはもらえず、しかたなく絵葉書だけを買って帰ることに。

数年後、結婚してロンドンに留学した際、妻と妻の妹とその友達を連れて、再び湖水地方へ。今度はレンタカーで。同じフェリーに乗って（今度は車だからやや割高で）、目指すはヒルトップ。連れの一団に昔の悔しい思い出を語りながら、今回は時間も休館日も確認してきたから大丈夫、とたどり着いてみると、またも閉館。「村の運動会のため臨時休館」と扉に貼り紙がしてある。なんだそりゃ？ しかたなく、村の運動会を見学して帰ることに。

その15年後。今度は息子も含めた家族連れで再びアプローチ。ついにヒルトップを見学することができた。すでに時代が変わり、テレビ番組やネットの映像などで中の様子も何度も見て知っていたが、それでも感無量だった。